

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立戸田小 学校

厚木市教育委員会の基本目標
 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 山内 夕

学校教育目標

学校経営の方針

夢を育み 自信をもって未来を拓く 戸田っ子の育成

・児童が楽しいと感じる学校 ・共に学び共に育つ学校
 ・教職員がやりがいを感じる学校 ・家庭・地域から信頼される学校

今年度の重点目標

・知的好奇心に働きかける「わかる・できる・楽しい」授業づくり ・創意工夫を通した楽しく活気のある学校づくり
 ・基本的生活習慣の確立と健康で丈夫な体づくり ・地域との協働による教育活動の充実 ・安心・安全な環境づくり

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「わかる・できる・楽しい」授業づくりを行う。	1・2・3	・学習の場に合わせた様々な教材の活用を各学年で行った。 ・児童の学習状況に合わせた少人数指導や個別学習を行った。 ・中学校区共通で「家庭学習の手引き」の周知を行った。	・児童の9割程度が分かりやすいと回答しているが、課題があると答えた児童が1割いる。その子たちが確実に基礎学力を身に付けていけるようにしていく必要がある。	・分かりやすさについて、さらに分析し、どのような分かりやすさが考えられ、手立てを講じていくことができるかを検討していきたい。 ・教員間の情報共有を深めたり、個別の学習支援を活用したりすることで、基礎的・基本的な学力を身に付けていくことができるようにする。
GIGAスクール端末を生かした授業を行う。	1・3	・GIGAスクール端末を活用した授業を行った。 ・AIDリルを導入し、計算スキルの向上を図った。 ・教員でのGIGAスクール端末活用の研修を行い、授業力向上を図った。	・約9割でGIGAスクール端末の活用ができているという回答を得られた。 ・児童がGIGAスクール端末の操作方法に慣れ、使う機会が増えてきている。 ・委員会活動等、授業以外でも活用する場面が見られた。 ・今後、宿題等で使用することで、個別の学習進度に対応できることが期待できる。 ・教員が最も課題を感じており、今後の活用方法について検討をしていく必要がある。	・教員向けの研修を企画し、端末のさらに効果的な活用ができるようにする。 ・宿題等、端末の持ち帰りの機会を設けていく。
生活科や総合的な学習の時間では、体験活動や地域素材を生かした授業をする。	1・2・3	・生活科や総合的な学習の時間で体験活動や地域素材を生かした学びの推進を行った。 ・校内研究で地域をテーマとし、地域との繋がりを生かした授業を模索した。	・前年度と比較し、保護者と教員の達成度が向上している。 ・今年度、校内研究で「自ら学び探究する児童の育成 ～地域とともに～」を謳っており、教職員は地域に対して高い意識で望んできた。 ・児童の達成度が前年度と比較してあまり変化が見られなかった。長期的に取り組んでいく必要を感じている。	・次年度は、校内研究として、このテーマでは2年目の取組となる。引き続き、地域と協働しながら、子どもたちの充実した学びができるよう取り組んでいきたい。
学校内での温かい居場所づくりや楽しい授業づくりに努める。	2・3	・お互いを認め合える温かい学級づくりを図った。 ・保健室やほっとルーム等で、一人一人に合った支援を行った。	・学校生活の様子やアンケート結果から、児童は概ね楽しく学校生活を過ごしていると感じている。 ・学校生活を楽しく過ごせていないと回答した児童が数名いることは見逃すことができない。	・学級活動や児童会活動を中心とした、児童が主体的に活動できる環境をつくり、児童の成功体験を増やし、自己肯定感を高める。 ・お互いを認め合える学級づくりに励み、学校が温かい居場所と感じられるよう、学級経営に努める。 ・保健室やほっとルームなど、一人一人に合った支援を引き続き行っていく。

<p>児童の変化や気付き等の情報を共有し、困り感のある子への対応をする。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による組織的な児童指導・支援・相談体制の充実を図った。 ・問題行動の「未然防止」「早期発見」「児童の成長につながる対応・指導」を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、児童や保護者はおおむね相談できると感じている。 ・児童に相談場所の周知を行い、個別で相談できる機会・場所を設けた。 ・相談できないと感じている児童や保護者がいることについても見逃すことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、児童が安心して相談できる雰囲気づくりや環境づくりを行っていく。 ・定期的に、教育相談コーディネーターやこころスマイル支援員からほっとルームについて児童に周知する機会を設けていく。
<p>児童の発意・発想を生かし、自主的・自治的な学級活動や児童会活動ができるように適切に指導・助言をする。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な活動による学級活動や児童会活動の充実を図った。特に、児童会主体で「あいさつ運動」に取り組み、学校全体で挨拶の活性化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、協力し合って、楽しい学校・学級生活をつくらうとしている ・児童会活動では、あいさつ活動やふれあいタイムなど児童の発意・発想を取り入れ行ってきた。 ・学級活動では、各学級で児童の発想を活かした活動を行っている。 ・児童が発想した内容について児童中心に活動できるようにすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校HPで学級活動の様子を発信していく。 ・児童が発想した内容を主体的に活動できるように指導や支援を行っていく。
<p>児童が「光・暗闇・外遊び」を意識した生活を送れるよう、働きかけをする。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立と健康的な食生活を保健だより等で周知できるようにした。 ・からだウィークで、校庭でからだを動かして遊ぶことの楽しさを味わいながら、体力づくりを行えるようにした。 ・学校保健委員会で、「光・暗闇・外遊び」を提唱されている野井真吾先生に講演いただき、教職員だけでなく保護者や運営協議会で共有化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8割強の児童は「光・暗闇・外遊び」を意識した生活を送っていると回答している。 ・低中学年はよく外遊びをしている。 ・保健委員会では12月の児童朝会で「光・暗闇・外遊び」を周知するための活動を行った。 ・児童の2割弱は課題意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月には体育委員会主体でからだウィークの企画を検討中。例年よりも遊びの種類や期間を増やし、外遊びを楽しめる機会を広げていく。 ・3月の学校保健委員会は「光・暗闇・外遊び」をテーマに開催予定。保護者や地域も一緒に子どもたちの健康な生活について考えたい。
<p>児童が手洗い・歯みがきなど、病気の予防につながるよう行動を実践できるよう指導を行う。</p>	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き動画を作成し、給食後に各教室で利用できるよう環境を整えた。 ・手洗いができるよう、液体石鹸や固形石鹸の補充を常時行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食後の歯みがきは、保健委員会の動画を活用してみがくことが定着してきている。 ・歯ブラシを持ってきていない児童が一定数いる様子。 ・食後の歯みがきについて保護者・児童の1割程度は課題意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・換気等、忘れがちな場面もみられるので、タイムリーに啓発していく(委員会活動や手洗いチェッカーの活用) ・保健だよりを通して歯みがき習慣を啓発したり、必要に応じて学級で持ちもの確認をしたりする中で、給食後の歯みがき習慣を定着させる。

<p>気持ちよく学校生活を送れるよう、清掃活動を行っている。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に美化週間を設け、より隅々まで掃除をしていけるよう呼び掛け、清掃に対する意識を高められるようにした。 ・トイレ掃除のやり方について動画を作り、周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年で協力して清掃に取り組んでいる。 ・保護者のアンケート記述から、校舎内(特にトイレ)の衛生が保てていないことについて複数の意見をいただいている。 ・清掃を頑張っている児童も多くいるが、校舎内の衛生面の課題は、校舎内の広さに対し、児童数の少なさにも問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃主任を中心に、委員会活動(環境委員会や保健委員会)を充実させ、校内全体で清掃活動を意欲的に取り組めるようにする。 ・新年度に向けて清掃場所の配置人数等の見直しを行う。
<p>地域と協働して教育活動の充実を図る。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田小サポート隊(学校支援ボランティア)による教育活動支援と環境整備を行った。 ・地域協働活動の推進を図った。 ・校内研で地域をテーマとし、地域との協働による教育活動の推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働の充実について、保護者、教員の数値は上がっている。 ・地域との活動への教員の意識は校内研究によって確実に高まっている。 ・保護者・教員・児童アンケートの文言が違うので、一概に比較できない。児童は「地域のために何ができるか」と考え、厳しい評価になったと考察する。 ・自己有用感をどう伸ばしていくかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や生活科の今年度の活動はまだ途中なので、3学期のまとめや発信などを経て児童の意識も変わることを期待し、来年度も同じ項目で校内研究とも関連させながら変化を見ていく。 ・教員は「自己有用感」を意識して計画する。
<p>交通安全教育を日常的に効果的に行う。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室、下校指導、登校班長会議、教師による下校の見守り、朝会での講話等で交通ルールへの意識を高められるよう図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校班での登校は、安全に気を付けて歩く姿が見られる。 ・交通ルールを守ることに、昨年度に比べると保護者と児童の認識のずれはあるが、その差は小さくなっている。 ・登校時に比べ、下校時のトラブルが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時の状況を把握し、具体的な指導につなげる。 ・班長から出た課題点などを共有し、子どもたちが自ら交通ルールや安全について意識して行動できるよう働きかける。
<p>災害時や緊急時の対応について適切に指導する。</p>	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の避難訓練、水害時避難訓練、不審者対応訓練などを行い、災害時や緊急時における身の安全の確保・避難方法の理解と実践的な態度の育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組として、雨天時でも延期せず、避難場所を体育館に変更するという設定で避難訓練を行った。 ・保護者も児童も、災害時や緊急時の対応について約1割の児童が課題があると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時のために、 ・いざという時の集合場所や方法を決めておく。 ・自分の住所や電話番号を言えるようにすることを、保護者連絡ツール等も活用しながら家庭と連携して推進していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学力は、大人になり社会に出ていく上でも重要な役割をしている。そういった意味では、小学校の貢献度が大きい。 ・学校だけでなく、家庭での学習も大切となる。しかし、いろいろな家庭環境があるのも事実。ボランティアの支援等での地域力も必要とされるのではないかな。 ・GIGAスクール端末の活用について、AIドリルによってその子に合った進み方ができる。一方、読解力を付けていくためには本を読む経験が必要となる。 ・GIGAスクール端末の使用の約束を決め目的をもって使っていく必要がある。 ・探究学習は、自分で考え、自分で調べる。これから一番必要となる生きる力となる。 ・自学自習の時間を設け、子どもたちが自分の力に合わせ、学習の時間を選べる時間の試みを行ってはいかがだろうか。子ども自身が学習で何が出来て、何が出来ていないかが分かり、自分に合った学習を見つける時間としていくことができる。 ・子どもたちにとって、地域を「ふるさと」にしていくために、地域のことを知る必要がある。それによって、この地域を生きる「戸田っ子」らしさを身に付けていくことができる。 ・避難訓練では、校庭に避難するだけでなく、校舎内で避難するというやり方も考えられる。 ・地域の避難訓練もあるので、学校でも周知していただきたい。 ・学校教育アンケートでは、「地域の一員として」という文言が地域の人への挨拶やゴミ拾い等を想定していたが、地域の行事への参加と思われていたのかもしれない。
--

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

<p>各総括教諭のグループ運営の評価システムが定着し、よりよい戸田小学校づくりに向けて教員の意識向上が図れた。来年度は、学級数減少による教員減少が見込まれるので、総括教諭のグループ組織を「学習デザイン推進部」「心と体のすこやか育成部」「みらいあんしん創造部」の3グループ編成とする。その上で、「よく考えて、学ぶことを楽しむ子」「自分と仲間を大切にする子」「自立して、自律する子」の育成を目指していきたい。</p>
--